

開 会

○石井国土計画局総務課長　ただいまから国土審議会第7回圏域部会を開催させていただきます。

私は国土計画局総務課長の石井と申します。本日はお忙しい中をご出席いただきましてありがとうございます。

会議の冒頭に、本日の会議の公開につきまして申し述べさせていただきます。国土審議会運営規則を当部会にも準用し、前回と同様、会議及び議事録ともに原則公開することとし、本日の会議も一般の方々に傍聴をいただいております。この点につきまして、あらかじめご了承くださいませようお願いいたします。

なお、本日の出席者は、部会の定足数を満たしております。

次に、お手元の資料の確認をさせていただきます。議事次第、座席表のほか、A4の小さい紙でございますが、資料1が委員名簿、A3の大きい紙の資料2が意見聴取結果のまとめ。クリップを外していただきますと、同じA3の大きな資料がホチキス綴じで下にありますが、これは意見照会の際に提示をした広域地方計画区域検討案でございます。資料2と資料3が大きいものでございます。

また、お席には今までの圏域部会の資料を綴りましたファイルを置かせていただいておりますのでご参考ください。

それでは、以降の議事を部会長にお願いいたします。

議 事

地方公共団体、経済団体からの意見聴取結果について

○中村（英）圏域部会長　それでは、本日の議事に入らせていただきます。

今日は、お手元の議事次第のようでございます。先日来、地方公共団体、経済団体から意見を聞いてまいりまして、それが戻ってきていますので、事務局からその報告をしていただきます。

それではよろしく申し上げます。

○道上国土計画局地方計画課長　お手元の資料に沿いましてご説明申し上げます。A3判の資料2でございます。

資料2の1ページ、2ページは、全体をまとめた総括表でございまして、3ページから地方公共団

体、経済団体からいただいた意見をまとめてございます。

いただいた意見を出来るだけ忠実に書いたものでございますけれども、長文にわたる意見をいただいたところでは、事務局のほうで適宜短縮して記載した部分もございます。大体1ページ、2ページに沿ってご説明を申し上げます。

まず1ページの左上でございます。東北地方の15団体の地方公共団体、経済団体からいただいた意見でございますけれども、全体としては、全体というのは地方公共団体、経済団体のトータルで見た場合ですけれども、東北に関しましては、新潟県を含む7県にすべしという意見が多数であったということでございます。

このうち、県だけに着目いたしますと、この資料にございますように、新潟県の意向尊重と書いた欄に3つほど丸がついてございますが、青森県、岩手県、秋田県という北東北3県からは、新潟県を含めて東北地方を7県にすべきか、6県にすべきかについては、新潟県の意向を尊重すべきというご意見でございました。

そのほか、宮城県と山形県に関しましては、新潟を含む7県にすべしという意見でございますし、福島県に関しましては、その他の区域、つまり6県でも7県でもない、その他の区割りが望ましいけれども、具体的にどういう区割りをすべきかということに関しては、提案することは困難というご意見でございました。

この点に関しまして、4ページの右下に福島県からいただいた意見が書いてございますけれども、2番目のポツでございまして、「福島県は、必要に応じ様々な組み合わせでそれぞれの県と連携を図って進めてきている」「社会圏、経済圏は複雑かつ重層的に存在しており、広域的な課題は、分野ごとに対応すべき範囲が異なることから、一律的・単線的に枠組みを設定することは困難」ということでございます。テーマによって組み合わせが違ふということからして、具体的な役割を提案することは困難という趣旨でございます。

東北に関しましては、そういう状況、あとは経済団体関係も、どちらかというと7県という組み合わせにすべしという意見が多かったということでございます。

1ページに戻っていただきまして、東北の3県から意向を尊重すべしと言われた新潟県に関しましては、東北に入る案、北関東の3県と一緒にグルーピングする案、北陸3県と一緒にグルーピングする案、大きな首都圏にする案という4つのパターンがあったわけでございますけれども、いずれが良いかに関しましては、新潟県からは選択結果が示されなかったということでございます。

この点に関しまして、5ページをご覧ください。ここにございますように、新潟県としては隣接するいずれの圏域とも密接な関係があることから、いずれの案も選択出来ない、隣接する複数の圏域に

対等な立場で属することが出来るよう要望するということでございます。その下には、そのように選択は出来ないけれども、それぞれの区域割りに関しまして、一定のプラスの評価をいただいております。

東北を7県にする案に関しましては、従来から広域連携の実績があるということなどで、新潟県の主要プロジェクトの推進が期待出来るという評価をいただいておりますし、パターン2の北関東3県と一緒にする案に関しまして、当方から示しましたのは茨城、栃木、群馬、プラス新潟という案だったわけですが、それに福島県を加えた圏域と考えると、首都圏の機能を代替する圏域として一体性が高まり、発展可能性が期待されるというご意見でございました。

その右の富山、石川、福井に新潟を加えた北陸4県の区割りに関しましては、社会資本整備や災害、農業などの分野において密接な関係があるなどという評価をいただいておりますし、さらに2014年の北陸新幹線の金沢開業に伴って、北陸3県に新潟県と長野県を加えた圏域の一体性が高まるという評価をいただいております。

その右の大きな首都圏に含めるという案に関しましては、産業経済や人の動きにおいて極めて密接な関係がある、人的交流や経済的交流は圧倒的に関東に向いている、さらに首都圏と一体化することにより、新潟県は北東アジアに向けた国際的な拠点としての役割を担うとともに、太平洋側と日本海側の自然条件の違いを克服した一体的な整備が期待されるというふうに、これもプラスの評価をいただいております。

1ページにお戻りいただきまして、新潟県の経済団体、新潟県の商工会議所連合会からは、大きな首都圏に含めるべきというご意見でございましたが、ただし条件付きということで、新潟県の考え方を十分踏まえるべきということでございます。

同じ1ページの真ん中の上の欄でございますが、北関東地方、茨城、栃木、群馬の各団体に関しまして、これも経済団体を含めた全体としても、また県だけに着目いたしましても、1都7県、あるいはそれに新潟県を加える、あるいはさらに福島県、長野県を加えるという大きな首都圏を指向する意見が全てであったと。北関東3県だけとか、あるいはそれに新潟県を加えた組み合わせを選んだ団体はなかったということでございます。

新潟県との関係でご覧いただきたいと思うのですが、6ページに茨城県からいただいた意見がございますけれども、今申し上げたように、北関東だけの組み合わせということに関しましては、関東を南北に分離すべきではないというご意見でございました。新潟県を含めた大きな首都圏にするということに関しましては、新潟県を除く1都7県のほうがより適当だという言い方ではございますが、パターン2とかパターン3に書いてございますように、南北に分離するべきではないというわりと強い

意見に比べまして、パターン4を排除するようなニュアンスがちょっと弱いかなということでございます。

次の7ページに、栃木県、群馬県からいただいた意見がございますけれども、栃木県の意見のパターン4のところをご覧いただきますと、新潟県を含む大きな首都圏1都8県という組み合わせに関しましては、パターン1、新潟県を除く首都圏に次ぐ案であると評価をいただいております。

群馬県に関しましては、先ほど申し上げたように、新潟県のみならず福島県、長野県も含めるべきという意見でございます。そういうことで新潟県を北関東ないし、関東に含めるべきかということに関しましては、北関東3県のご意見としては、それを排除するというご意見ではなさそうだということでございます。

1ページの真ん中の下の表の南関東の15団体でございますけれども、この表にございますように、どのパターンが良いかという選択をお示しただけなかったところが多いという状況ではございますが、ご回答いただいた中では、全体としては大きな首都圏、つまり、1都7県、あるいはこれに新潟県を加えた1都8県にすべしというご意見と、小さな首都圏、南だけの1都3県、あるいはこれに山梨県を加えた1都4県というご意見が、数の上ではほぼ拮抗しているという状況でございます。

このうち、都ないし県のご意見といたしましては、東京都は選択を示していただかなかったわけですが、小さな首都圏、1都3県ないし、1都4県を指向するというのが、わずか2県とはいえ、大きな首都圏を選ぶところよりは多かったという状況でございます。

この関東の南と北をトータルで眺めますと、北のほうは、南と一緒にすべしというご意見が全てだったわけでございますけれども、南のほうは必ずしも選択を示していただかなかったところが多かったわけで、明確にこれという意見に集約するのは難しいわけですが、強いて言えば、小さな首都圏を指向とするほうかなということでございます。

それから、1ページ目の右上の北陸地方に関しましては、全体としても、また県のご意見に限ってみましても、北陸3県、富山、石川、福井の組み合わせが多数であったと。

このうち富山県に関しましては、南のほうの東海地方と合わせた8県というのはそうすべきではないというご意見ですが、北陸3県にするか、それとも新潟を含めた4県にするかに関しましては、どちらがいいということも明確にはおっしゃっていないということでございます。

10ページの上の欄が富山県でございますけれども、左側の北陸3県という欄と北陸4県という欄を見比べますと、北陸3県の欄は点線の下最初のポツに書いてございますように、「気候風土等の類似性が高く、歴史・文化等共通の基盤を有し、これまでも活発な交流の実績がある。住民の意識の面からも円滑な計画策定が可能な区域と考えられる」と。そういう評価をいただいているのに対し

て、その右側の北陸4県の欄ですけれども、同じく点線の下最初のポツでは、「北陸3県よりも大括りの区域とすることも1つの考え方である」。その下のポツで、「しかし、住民意識や社会経済活動上の関連性等は、北陸3県と比較した場合希薄な面がある」ということで、3県でも4県でもどちらとも選んではないのですが、このご意見のニュアンスを見ますと、3県のほうが好ましいという考えではなかろうかと読むことも出来るわけでございます。

それから、同じく北陸地方の経済団体、石川県の商工会議所連合会からは、27ページの真ん中の右のほうのパターン4の欄、石川県商工会議所連合会からのパターン4の評価。パターン4は北陸地方と東海地方を一緒にした括りについてのご意見でございますけれども、「全国6区域と広域であり国際化に対する圏域として中部8県を1区域とする点は評価できる」という一定の評価をいただいておりますが、その後、「地方の特性を活かせない懸念がある」ということで、この石川県商工会議所連合会からは、中部8県という、東海地方と一緒にする組み合わせに関しても、それなりの評価はいただいているということでございます。

しかし、繰り返してございますが、1ページにございますように、北陸地方に関しましては北陸3県というのが多数派であったという状況でございます。

また、1ページに戻っていただきまして、右下の表でございますけれども、中部圏と言いますか、東海地方の14団体のご意見でございます。これも、選択を示していただけなかったところがわりと多かったわけでございますが、その中で、「全体としては、小中部圏」と書いてございます。つまり、北陸とは分けるべしという意見が多数であったと。中部5県、あるいはその中の愛知、岐阜、三重だけの3県というご回答をいただいたのが多数であったということでございますが、県だけに着目いたしますと、大きな中部圏、ここでは岐阜県と愛知県のわずか2県でございますけれども、滋賀県も含めた9県という組み合わせが県の中では多いという状況でございます。滋賀県、さらには北陸3県も含めた9県という組み合わせは、中部圏開発整備法上決まっている中部圏と同じ区域というものだというご意見があったということでございます。

これをそれぞれのいただいた回答で若干詳しく見てみます。11ページの静岡県の欄でございますけれども、静岡県からは現段階では区域の特定は困難ということで選択を示していただけなかったわけですが、点線の下の方をご覧くださいますと、長野、岐阜、静岡、愛知、三重の5県という組み合わせに関しましては、現行の中部圏開発整備計画と区域を変えることで、計画が二重構造となるという若干批判的なご意見でございますが、その右側の富山、石川、福井の北陸3県に、長野、岐阜、静岡、愛知、三重の5県を合わせた中部圏8県に関しましては、4全総から概ね20年間にわたりブロック計画が進められており、滋賀県を除き、現行の中部圏開発整備計画と整合が図られていると。こ

れはニュアンスといたしましては、どちらかというプラスの評価かなということでございますので、静岡県は、選択を示していただかなかった中でどちらかという中部8県のほうを指向しておられるのかなということでございます。

次の12ページの真ん中の欄の名古屋市も、同様に選択を示していただかなかったわけですが、太字で書いておりますが、この太字は事務局のほうで太字にしたわけでございますけれども、広域地方計画の区域設定に当たっては、中部圏開発整備計画の対象区域を基本に、関係自治体の意見を尊重しながら検討されたいということで、これも同様に、中部圏開発整備計画の区域、すなわち、滋賀県まで含めた9県を基本にと言っていることからして、大きな中部圏を指向しておられるのかなと読めるわけでございます。

21ページの一番上でございます。中部経済連からいただいたのはパターン3、すなわち愛知、岐阜、岐阜、静岡、長野の5県にすべしというご意見だったわけですが、パターン4の欄にございますように、8県を一体とした全体構想のもとで、中部と北陸ごとに2つの計画を策定することも考えられるということで、8県を一体とした全体構想ということに関しましては、プラスの評価もいただいているということでございます。

さらに商工会議所連合会のご意見ですが、28ページの上から2番目の、岐阜県の商工会議所連合会のパターン4の欄の後半部分をご覧くださいますと、「北陸地方と中部地方を統合した8県案」、この直前に書いておりますように、同一線上では比較、検討を行いにくいですが、この8県という案は、「将来への発展ポテンシャルが高くなり、望ましいものと思料」と、これも5県の組み合わせが良いと言っておられる一方で、8県の組み合わせもプラスの評価もいただいているということでございます。

それから、同じページの下から2番目、愛知県商工会議所連合会からの、愛知、岐阜、三重、3県とすべしというご意見でございますが、これの下のほうの最後のポツ、ただし書きから始まっているところで、ただし、愛知、岐阜、三重、3県という組み合わせは「固定的な考え方ではなく、今後の広域的な連携活動により、3県以外の県、もしくは、地域の住民の間に共同体意識が醸成されたり、あるいは産業経済の結びつきがより強まれば、当該地域を包摂した圏域も想定されよう」ということで、より広い組み合わせも必ずしも排除されていないのかなということでございます。

1ページ目に戻っていただきまして、北陸地方と東海地方の関係ですが、北陸のほうは先ほど申しましたように、3県という小さな組み合わせを指向しておられるということでございますが、南のほうに関しましては、全体としては小さな中部圏が多かったわけですが、より細かく見てみますと、北陸まで含んだ大きな中部圏が県の中では多いわけでございますし、経済団体も含めまして、大きな

中部圏というのを必ずしも排除していないのかなということでございます。

それから、次の2ページをお開きください。左上に近畿圏と書いてございます。近畿圏に関しましては、滋賀県からは近畿・中部両区域に重複して位置づけるべきという、先ほど申し上げるのを忘れてましたが、三重県も同じようなご意見でございましたけれども、両方に重複すべしというご意見がございましたけれども、それを除きまして、選択をお示しいただかなかったところも多かったわけですが、選択を示していただいたのは、滋賀県を除き、全て2府4県で良いというご意見でございました。

この中で、13ページをお開きください。近畿圏の各府県、政令市のご意見をこのページにまとめてございますけれども、各自治体の多くからは、京都府の欄にございますように、2府4県でいいのだけれども、隣接する福井県、三重県、徳島県の3県に関しては、近畿ブロックにおける協議会の構成について配慮願いたいと。つまり、区割りとしては2府4県でいいけれども、制度として協議会には隣接する県も参加出来るということになってございますので、協議会の構成としては、福井、三重、徳島の3県も入れるほうが望ましいというご意見でございました。同様の意見は京都府以外からも、大阪府とか大阪市からもいただいております。近畿圏に関しては、2府4県でいいけれども、福井、三重、徳島の3県も協議会には入れるべしということで、大体まとまっているのかなということでございます。

また2ページに戻っていただきまして、九州に関しましては、例外なく九州7県でいいということでございます。

それから、2ページの真ん中あたりの上でございますけれども、中国地方に関しましては、岡山県と岡山県の商工会議所連合会の2つだけは中四国を合わせた9県にすべしというご意見でございましたけれども、それ以外にご回答をいただいたところでは、中国地方を5県にすべしというご意見でございます。

ただ、15ページの上のほうでございますけれども、広島市からは中国5県が適当というご意見ですが、パターン4の中四国9県という欄の後半でございますけれども、「中国・四国ブロックを対象とした国土政策関連の広域的な取組がいくつかあり、今後も瀬戸内海の環境保全をはじめとして、中国・四国ブロックの自治体が連携して取り組むべき課題がある」。その意味では、パターン4、つまり中四国9県を一緒にするという案を必ずしも否定するものではないというご意見をいただいております。

それから、22ページの上のほうのパターン4の欄でございますけれども、中国経済連合会からも中国5県にすべしというご意見でございましたが、中国地方と四国地方をそれぞれ別の区域とした上

で、総合連携の強化に取り組むことが現実的というご意見でございます。

そのように、岡山県を除いては中国5県という意見だったわけですが、若干の団体からは、一緒にすることも否定しない、あるいは分けた上で連携を強化すべしというご意見もいただいております。

それから、2ページに戻っていただきまして、四国地方でございますけれども、四国の中で徳島県からは選択を示せなかったということがございますが、徳島県のご意見といたしましては、中四国9県の組み合わせ、四国4県の組み合わせ、さらに関西に入るというもの、その3つを今、検討中であることから選ばない、重複して区域に入ることを希望するというご意見がございました。徳島県と徳島商工会議所連合会を除きましては、四国4県という組み合わせというご回答が多数であったということでございます。

この中でも、先ほど中国地方でご覧いただきましたのと同様に、16ページの下から2番目がございますが、愛媛県は四国4県が適当というご意見でございますけれども、これの最後のポツ、なお書きのところでございますが、「なお、人口・経済規模などの面では、他区域に比べて小さくなってしまいが、今後中国地方との結びつきが一層強まれば、区域の統合も検討すべき」ということで、4県が望ましいけれども、将来的には一緒にすることもあり得べしというご意見でございます。そういうご意見もあるということでございます。

意見の概要は以上でございますけれども、2ページに戻っていただきまして、いただいたご意見に従って機械的に、少数意見を無視するということではございませんけれども、多数と少数がわりと明確に表れているところを赤の線で引いたと。それから、多数と少数が必ずしも明確ではない、あるいは関東とか中国、北陸のように、北のほうと南のほうの意見が必ずしも一致していないというところに関しましては、青ないしは水色で引いたということで、ここは必ずしも多数、少数が明確でないという意味でございますけれども、そのように引いてみたものでございます。

それから、県を緑色で塗りつぶしておりますのは、自分の県として、複数の圏域に重複して所属することも認めるべしというご意見があったところでございます。新潟県、滋賀県、三重県、徳島県という4県に関しましては、我が県は重複して入るべしというご意見でございます。このように、いただいたご意見を機械的に線で引いてみたらこういうことであったというものでございます。

それで、若干の団体からは、自分の属する区域の区割りのみならず、首都圏のあり方についてご意見をいただいているところもございます。3ページに仙台市のご意見がございますけれども、一番下の真ん中あたりの（パターン4）と書いたところでございますが、「関東が人口規模、経済規模において現在に増して巨大となるなど、国土政策が本来考慮すべきと考えられる各地域の自立的発展へのバランスの取れた配慮が不足している」と。パターン4、つまり新潟県を含めて関東を大きくすると

いう案に関しましては、バランスを失するというご意見をいただいております。

それから、11ページの一番左下でございますけれども、静岡市からも同様に、「他区域についても触れさせていただけるのであれば、首都圏については、国土の均衡ある発展の観点から、あまり広大な区域としない方がよい」というご意見でございます。

それから、27ページの下から2番目、石川県商工会議所連合会のパターン2の欄でございますが、「パターン2が適当」と書いたその下で「首都圏5都県と比較的まとまった区域であることから、最適な区割と思われる」ということで、首都圏を大きくするようなものではなくて、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨という5都県の組み合わせが最適だと言っておられる。これも大きな首都圏は好ましくないということの裏返しかと思えます。そういうご意見をいただいているということ。

それから、さらに必ずしも首都圏と名指しでイメージして言うておられるわけではないのですが、21ページでございますが、中部経済連合会からのご意見といたしまして、一番上のパターン3の欄でございますが、その下3行でございます。パターン1から3の中では、「区域間の面積等のバランスや自然条件の点で、パターン3が最も適切」。パターン3というのは、首都圏に関しましては、大きな首都圏ではなくて南北に分けるというものでございますけれども、面積等のバランスについて言うておられるということでございます。

同様に28ページでございますが、岐阜県商工会議所連合会のパターン2の欄でございます。後半3行ですが、「全体としてパターン1からパターン3のうちではパターン2」、パターン2というのも、これは首都圏を南北に割っている案でございますけれども、別に首都圏と明記しておりませんが、それが最も適当であると。

中部圏に関しましては、パターン1、2、3ともに全部5県という組み合わせで同じだったわけでございますけれども、その中ではパターン2というものが適当と言っておられるということでございます。そういうふうに首都圏と明記していないところもございますけれども、首都圏以外の区域からは、首都圏は大き過ぎないほうが良いという意見も、若干の団体からいただいているという状況でございます。

以上がいただいたご意見の概要でございます。

質 疑

○中村（英）圏域部会長 ありがとうございました。

このようなご意見をいただきましたが、これを踏まえて、委員の方々のご意見を伺いたいと思います。どうぞご自由におっしゃってください。

○中村（胤）委員　先頭バッターということで、中村でございます。今のお話を聞いていると、各団体、それぞれにいろいろな思惑があって、千差万別、これをまとめるというのは大変だなと。一カ所に聞けばまたいろいろな案が出てくるということで、今までずっとお話をしてきた中で、最初に第1回目だったでしょうか、大体問題になるところは新潟と静岡と中国・四国かなという話が出ていました。こうやって見ると、最後まで新潟が浮き彫りになってきて、どうも新潟の県の人はずっと入っていいやという非常に自信があるのか、曖昧模糊とした結果が出てきています。

見ていると、静岡県はもう大体中部圏に収まってきているかなと。中国・四国の問題においても、岡山が主導権を落とすために、岡山だけが特化していますけれども、これもやはり将来的には日本海と太平洋を1つに、橋を造ったわけですから。

そういうことをちょっと思いながら、いろいろな意見を分析、あるいは聞いてみますと、この圏域というものに対する団体の皆さん方は、まず1つには現状維持。枠の中からは抜け切れていない人が多分にあるのかなと。これだとやはり、圏域という本来の意味も取り違えてしまうのかなと。あるいは現状に妥協してしまって、話し合いみたいに北陸3県みたいになってしまうと、果たしてこれでいいのかなと。

それから今までと違った組み合わせになってしまうと、何か飲み込まれてしまうとか、主体性がなくなってしまうとかいうような思い、それぞれの団体、あるいは地方公共団体とか経済団体、それにしてもみんな何となくちまちまとまとまっているのかなと。

そういう点では前回申し上げましたように、パターン4で大きく区切りながら、その中で大きく分けて、これからの活力とか、あるいは新しい再発見、再創造が出来るようなことをしていかないといけないのではないかということで、私はパターン4のところを依然として固執しているわけです。

でも、今日のお話を聞いていまして、関東のところが、北関東と南関東の中で、もう人口がどんどんどんどん集中されてきて、あるいはここに富が本当にいろいろな形で全て集中してしまうわけですが、北関東、南関東のところをどうするのかということがちょっと私は聞いていまして、これを考えるべきなのかなと。

九州に関しては、ほとんど異論がない。九州に関しては、旅行でも最初の頃は1県1県でやっていたのが、韓国からのツアーを全部九州一帯でやっていく。すごく効率的に、そして韓国の人たちも便利になっている。こういう意味の捉え方は、観光という捉え方なんですけれども、これが経済圏という捉え方ではどうなるのかなと。そんなことを踏まえて、新潟のところを最初にどうしてもどちらか

へ入れる。太平洋、日本海側に縦断出来ないのなら、北陸3県と新潟を入れていったほうがやはり可能性があるのかなと。やはりこれからの日本海の港湾の問題、それから将来性を踏まえて。そんなことをちょっと、私もこの団体と同じように、何となくまとまらなくなってしまいました。でも、やはり大きく捉えていかないと、次の可能性とか国際性というものがないとだめなのではないのかなと。何となくちまちまし過ぎるんじゃないのかなということで、大きく分けることをまず提案させていただきたい。

以上でございます。

○中村（英）圏域部会長　ありがとうございます。

○関川委員　今、中村胤夫委員がおっしゃったことと全く同じで、それぞれみんな言いたいことを言っているけれども、みんな保守的だなというのが感想です。

相変わらず、新潟県の行き場がないというか、そういう寂しさはつくづく感じますけれども、同時に北陸3県のある種のかたくなさというか、現状のままで行きたいという思いがここから強く伝わってきます。つまり、この北陸3県程度を圏域として認めるのかどうかというのが大きな別れ道になっていくわけで、もしそれを認めるならば、当然中国地方と四国地方は分けなければならない。

また同時に、ここにはないですけども、やはり北関東と新潟と、あるいは、意外と好意的だった福島などを交えながら、東北地方の一部と北関東などを一緒にしていくという区域があってもいいだろう。

北陸3県だけの場合、つまり、人口が310万人ぐらいで、面積が1万1,000平方キロぐらいで、なおかつ、GDPが12兆円ぐらい、GDPが6%ぐらいでしょうか。面積のほうは岩手県と同じぐらいで、なおかつ、新潟県にやや欠けるぐらいなので、この北陸3県を気持ちの上で認めるかどうかというのは、大きな別れ道です。私としてはちょっと狭過ぎるかなという感想がありますけれども、その考えを決めていけば、自ずと大体の分け方というのは図上ですけども、決まってくるのではないかなと思います。

また、新潟県があえてこれだけ嫌われている北陸3県の側に行く必要もなかろうかという感想を何となく持ちました。

以上です。

○中村（英）圏域部会長　いかがでしょうか。ほかの方どうぞ。御厨委員、何かご意見があればどうぞ。

○御厨委員　今までの方に大枠では気分的なお話は出てしまっているのですが、私も一番気になるのは北陸3県。北陸3県がまとまって意見書を送ってきましたし、ここはこれで離れたくないという

かなり強い意思表示でありまして、それを今、関川委員は非常に保守的とおっしゃいましたが、確かに保守的なのですから、しかし、地域から言っても何から言ってもうまくいっているものに、なぜよその者が介入するのかという意図が、あそこはあそこで北陸3県がまとまって抵抗という意識が非常に強いので、これに上から何かものを書いていったほうが良いのか悪いのか、そこはちょっと私は留保しますが。

ただ、関川委員とちょっと違うのは、基本的にこの3県を認めたとしても、あとのところについては、括りはもうちょっと自由でもいいのではないかと。3県だからみんなその大きさをまとめていくという話ではなくて、九州は6県で全部入っていますし、そういう大きさは別にして括っていくのがいいのであって。

それから、新潟については、関川委員がこれだけといろいろおっしゃいましたけれども、新潟は逆にもてもてでありまして、いろいろなところから誘われていて、あまりにいろいろ多いものだから、一応ご本人としては意図を隠して、どこかへ行くと言わないでいるという、非常に贅沢な感じなのではないか。ただし、私自身が見ていて思うのは、新潟と北関東でもいいです、あるいは首都圏を交えてもいいですけども、日本海と太平洋が繋がるような区切り方をあえてしてみるとというのは、私は面白いのではないかと気がしております、それが1つです。

もう1つは、首都圏のところで非常に印象的だったのは、都県の意見としては、小首都圏を指向するけれども、いわゆる大首都圏と小首都圏が拮抗しているというのは非常に面白くて、首都圏をどう考えるかというのは多分、私は最初的时候にも申し上げましたけれども、ほかの府県を考えることは東京というのを抱えているというのは、ちょっと事情が違うのだろうという気がいたしまして、首都圏の場合でしたら、東京は、小首都圏と大首都圏と分けながら少し重ねてみて考えるという考え方もあるのかなという気がいたしました。

あとは、皆さんと同じでございまして、何となく一生懸命皆さんにお答えいただきながら、それでも基本的には今ある枠組みをそう大きくは越えないという感じがございまして、それを最終的に我々としてどう考えるかということがポイントだろうという気がいたします。

以上です。

○中村（英）圏域部会長　ありがとうございます。

どうぞ、山岸委員。

○山岸委員　皆さんの意見と大分似ているのですけれども、それでもあえて申し上げれば、私はパターン4を原則に行ったほうがこれからの発展性が高いのではないかと考えております。

各地域、地方に聞いた結果を聞いてくると、この社会をどちらの方向に持っていくかという戦略性

とか社会性というのでしょうか、そう申し上げてしまうと問題があるかもしれませんが、非常に貧困であると思えました。それは各地域に聞けばそうなるのかというのを聞いて、そのとおりになって、そうかと。面白くも何ともないという感じなのですけれども、何とか確かにどちらに行っても難しいということもあるのですが、パターン4の日本海と太平洋を抜けるという中で私が一番気がかりになっているのは、関東の大きさが大き過ぎるのかなというのはいえ、これは2つに割るのか、そこはかなり慎重にやらないと全体のバランスを欠くと思いはじめました。

以上です。

○中村（英）圏域部会長　どうぞ、あとはご自由に。いかがでしょうか。見城委員、どうぞ。

○見城委員　私は今日のご説明をいただきまして、懸念されていたところは新潟や、そのとおりに出てきたというのがまず1つです。新潟は本当にもっているのだと思います。各地域から、むしろ入っていただきたいということがあるので表明しないでのせうと私は解釈しております。

それから、先ほどから話題になっております北陸3県ですが、この圏域というものをどう捉えるかということ、もう少し各県に理解していただくことが必要だろせうと思います。というのは、北陸3県もこうして俯瞰で見れば、1つの県ではありませんが、県が3つあるという従来の考えではなくて、1つと言った方がいいのでしょうか、北陸3県が1つになって、それが日本海側へ抜ける。そちらの長野や静岡やあちらのパターン4のケースで繋がっていくというふうにいえば捉えるという指向が各県に出来るかということですね。県ごとで考えるとどうしても北陸3県となるのですが、3県が1つとなって、このパターン4の中に入っていくという指向の変化が望まれるのかどうかということですね。

というのは、これは驚いたのですが、徳島も、従来の考えでいくと当然四国という括りの中でずっと考えておりましたが、このご意見から、徳島が淡路島を通じて向こうへ向こうへと神戸の経済圏に非常に指向しているということも無視してはいけないのではないかと。こういう場合に、徳島の方をこの新しい圏域であなたのところはどういうポジションになるのだというポジショニングの意味がご理解いただけないと、こういった徳島のように熱い思いが経済圏で全く四国から出ている、違う方向を向いているという県に関してはしこりが残るだろせうと思います。

これはもう少し検討して、その圏域というものがどういうことかというのはもっともっと理解を深めないと、この徳島県のようなところは問題が残るだろせう。逆を言ったら、このアンケートは非常に面白かったです。こういう指向をしているところがあるのだということがわかりましたので。徳島の場合、経済的な意味合いが大きいということがわかりました。

それから、関東ですが、小さく分けられるよりは、新潟のほうの日本海側と太平洋側とを繋ぐ1つ

の大きな圏域の中で経済的な発展をしていくという方向が望ましいだろうと思いました。

以上です。ありがとうございました。

○中村（英）圏域部会長　あと、いかがでしょうか。

○矢田委員　今日のアンケートを見ないでというか、私の本音は、別に岡山県と私で何も話し合ったわけではないのですが、30ページの岡山県が書いてある岡山商工会議所です。

アンケートを聞けば、自分の地域を中心にして答えるのは当たり前なのですが、我々は国土計画の全体、国土を俯瞰してどうするかという視点なんです。見ていると、意外と商工会議所が幾つかが国土全体を俯瞰したときにどういうのかなという見解で、あとは、どうしても、書いている本人は別にしまして、組織の立場として国土を俯瞰した話というのはとても書けないだろう。従って、その辺のところからいくと、元々私はパターン4で、関東だけがパターン2的に切るとというのが見解で、これはアジアの中で国際競争力をブロックごとにしっかりつけていって、これから自立的な圏域を作るときには、どうしてもいろいろな要素を含まないと出来ないのだというところなのです。

ただ、もう1つのポイントは、圏域を設定したときに、設定してこれから計画を作る主体が出来上がっていきます。こちらで勝手に線を引いたとしても、客観的に計画を作る主体というのは、もう3、40年ぐらい地方で出来上がっているのです。それは、都道府県会議であり経済連合会です。この実態がここにきれいに反映されています。俺達を作るんだと。特に、経済連合会です。そのところにどんどん無視してはさみを置くと、現地はかなり混乱するんです。私は、せいぜい2つの主体を足すこと以外はさみは入れられないだろうと思っているので。

その辺、これからおそらく、今回の国土形成計画法が地元から計画の原案を作るときに、誰がどう府県を越えて作るのかという問題。次にボールを投げてキャッチする主体は何なのか、どうしてもこの圏域になるんですね。

ですから、その辺の関係からいくと、今後、長期展望をして受け止めたところが主体的に作るとすれば、山岸委員に言わせると、おそらく今日出てきた形は極めて当たり前で面白くも何ともない。これが、ある面では地方自治を受け止める主体なので、おそらくその辺の両方の整合性をどうするか。

最後に残るのは、依然として、関川委員が言われたように、もし人口300万人のブロックと4,000万人のブロックと同時に認めるというのは、国土計画で一体何を考えているのかという問題は必ず問われるのです。少なくとも、南関東だけで人口3,000万人近いのです。北陸300万人、南関東3,000万人。これで、ブロックごとにそれぞれ独自の路線で国際競争にいきましょうと言っても、知恵の出し方によっては不可能ではないと思いますけれども、元々資源が非常に乏しい前提でデザインを組むというのはいかがなものかと思います。その辺のところ、私自身も明確な回答は

ないのですが、国土計画的な発想で言えば大括りがいいのですが、これを受け止めた策定者から見ると、この単位というのも無視出来ない。従って、あり得るとしたら、幾つかの主体の組み合わせで大括りしていく話しかないのかなと思っています。

ただ、これを1回ヒアリングしたというのは、行政過程で非常に重要な事実なのです。こういう答えがなければ、知らない顔をして切って出せるのですが、地元からこういう意思表示があった上で、どこまで自信を持って全く別の論理が置けるかというのは非常に難しいところで、この圏域部会というのは結構難しいところに入り込んできているという感じ。本音がなかなか言えなくなった。本音というか純理論的なさばきが出来なくなった。行政過程に巻き込まれたということはひしひしと感じているので、その辺は、どうさばくか大変難しいところですが、今後の議論に委ねるしかないなど。

○中村（英）圏域部会長　南関東1都3県で人口3,400万人近い。

あと、いかがでしょうか。石原委員、何かご意見ございますでしょうか。

○石原委員　私は、望ましい圏域設定としては、将来を考えればパターン4というのが一番良いと思います。ただし、具体的な計画作りをするのは、都道府県が中心になって地域の経済団体とも協調しながら作業をするのだと思います。そういう実行可能性ということを考えますと、北陸3県として今後ともいきたいという意見が非常に強烈なものですから、それを乗り切れるのかどうか。

もう1つは、中四国ですけれども、私は、未来志向でいくなれば瀬戸内海を挟んで3本の橋もかかっていることだし、1本がいいと思うのですが、ただ、これも団体の意見聴取からも明らかなように、広島県などは中四国に非常に強い拒絶反応を示しておりますし、四国のほうも、各県でニュアンスの違いはありますけれども、中四国という声あまり出ていないわけです。しかも、都道府県のレベルでは。

そういうことを考えますと、望ましい姿はパターン4ですけれども、実行段階でのいろいろな困難といったことを考慮した場合には、北陸3県の扱いと中四国の扱いについては慎重な判断が必要であるという意見です。

○中村（英）圏域部会長　ありがとうございます。

平野委員、どうぞ。

○平野委員　今回の資料は、今まで以上にさらに興味深い資料を作っていただいたと思います。各地を治めている方々のご意見がどうであるかというのが詳しくわかって、結構吸い込まれるように見入ってしまいました。

ただ、この会議の席では、もっと日本全体を見る先生方のお話を伺うことも出来ますし、先ほどから俯瞰という言葉が出ていましたけれども、やはり俯瞰的に見るのがとても大切かなと思います。

今回の回答の中で、私にとりましては、これまでの取り組みがやりにくくなるのではないかと不安を感じるような回答が目立ったように思えたのです。この不安を解消出来るかどうか、どこまで地元の方々に納得のいく圏域を決めていくかの手がかりになるのではないかと思いました。

納得してもらうには、どういうことを地元の方に示さなければいけないのか、具体的に考えていくことが必要かと思うのですが、例えば、近畿のほうなのですが、13ページの上から6枠目の境市のところで、「やむをえないと考えるが」と言った上で、「計画区域外に及ぶ事業を計画に位置付けることについて配慮願いたい」。ああ、こういう心配があるのだと思ったのです。

では、この配慮というのはどういうことなのか、私などはよくわからないということもありますので、皆さんのお話を伺いながら、私も一緒に考えていきたいと思ったのです。その不安を解消していくことは、決してこちらで決めたことを押しつけていくためとかいう作業ではなくて、全く違うと思うのです。地元の意見を聞いた上で、だけど区切っていくことは、やはり俯瞰で見ていくときのとても大切な作業だと思いますので、それぞれの不安材料が何なのかというのを、まず、私たちもよく理解していくことを作業として行ってみたいと思います。いかがでしょうか。

もう1つ、前に輪切りの案が出たのですけれども、関東に住む私としましては、太平洋側に住んでいるわけですね。日本海側がマイエリアに入ることについて、大変夢を感じるのです。この夢を何とか実現することが出来ないだろうかなどということ、この圏域部会に出ているうちに感じてしまいました。

ちょっと話が戻ってしまっただけで申しわけないのですが、各地域で見ている、もう自分たち3県でいいのだとか自分たちの何県でいいのだ、今までどおりでいいのだという県の方々は一体感や連帯感があることについては素晴らしいと思うのですが、逆に、今までの連携をとっていたところ以外はよそなのであるという意識が強く残っているのではないかとこのあたりも、俯瞰的に見たときにはどうなのかということをよく考える必要があるのではないかと思いました。

以上です。

○中村（英）圏域部会長　ありがとうございます。

私も1つ意見を言わせていただきますが、こうして出てきたのを見ていますと、大きく分けて3つくらいのベースになる考えがあるのかなと思うのです。考えとも言えないようなものかもしれません。

1つは、慣習的というか伝統的というか歴史的ということで、ご近所様づき合いを今までどおりという感じのもの。さっきの北陸3県なんかはその典型だと思うし、そういうのが1つ。ほかも多かれ少なかれ、それはある。

2つ目は、大きいもの、強いものに頼っていこうというので、東京と同じ首都圏に入りたいとか、大阪と同じ近畿圏にくっつきたいとかいう、ほかを頼るという考え。

もう1つは、自立的にやっっていこう、国土計画的に考えようというので、私なんかは間違いなくここにするわけですが、ここでは、そういうのはどちらかというあまりたくさん出てきていないような気もするわけです。

そもそも今回の国土形成計画は、何のためにこういうものを作るようになったのかということから考えてほしいわけですが、今までの全国総合開発計画というのは、全国一本で考えてきて、どうしてもそれは東京中心で考える。そういうのでそれぞれの地域の計画を考えていくけれども、これは今後無理であるという反省に立って、全国計画は指針であると。それぞれの計画は、地方で自立的に独自に考えてもらうのだということであって来たわけです。そういった意味からは、それぞれの地域が独立して計画を作っていくというのが一番大事なんです。

さっき、平野委員がマイエリアと言われたけれども、決してマイエリアということではなく、どこどこに線が引かれたからといって、そこに開所ができて税金をとるわけでもないし、交通路線が切られるわけでもない。あるいはくっつくわけでもないわけで、そうではなくて、計画をどういうふうに考えるかということなのです。

そうすると、例えば、私がどうも気になるのは大首都圏というか大関東圏というので考える。例えば、大関東圏で将来計画を考えるという審議会みたいなものを作ったとします。そうしたときのメンバーの圧倒的多数は東京、神奈川、千葉、その辺の人たちである。それで、前橋や宇都宮の人はどれぐらいそこに参画してくるのだろう、あるいは参画してきてもどれぐらいそっちを主体的に考えた案が出せるのだろうか。そういうことを考えていくと、私は、やはり自立的という考えが今回考えるときには一番大事なのではないかと思うのです。

ところが、残念ながらそういう立場に立っての意見は、必ずしも多くないような気がする、ここから出てくるのですよ。委員の方々の意見はそうでもないのだけれども。

私は、前からここでも同じことばかり言って恐縮なのですが、やはりスコットランドでいる限りにおいては、いつまでたってもロンドンの観光客が遊びに行くところである。だけど、それがアイルランドであれば、俺はイギリスのロンドンに対抗する、あるいは、それよりも成長の著しい地域になり得るのだという将来の期待が僕はあるのです。

この人口4,000万人を超える大首都圏の端のほうでいつまでもいるなんていうことは、その地域の人は本当に望むのだろうか。今のような形で考えていられずに、何か東京や大阪から離されたとか、あなたたちは田舎なのだと言われたような気分が勝っているのかなという受け取り方をするので

すが、どんなものでしょうか。

近畿圏、中部圏それぞれの文化もあり、情報発信もある。それは東京は圧倒的に強いんですけども、それ以外のところだってそれなりの機能はしている。だけど、残念ながら群馬や栃木といったところから、そういうものはどれくらいあるのだろうか。そういう文化中心的なものがどれくらい機能しているのだろうか。それなりにあるといえはありますけれども、他の地域に比べるとどれくらいあるのだろうかということを、私はどうしても見てしまうのです。その点、北陸なんていうのは小さいし、あれかもしれないけれども、それなりのものは、歴史的なこともあるのでしょうか、あるのかなという感じがするのです。それは私の感想でございます。ご意見、いかがでしょうか。

○見城委員　今の部会長のお話からしますと、パターン1からパターン4がいいという単純な評価の仕方ではなくて、例えば、パターン4のように太平洋と日本海を両方持つ大きな括りでいくけれども、首都圏に関しては、案の定違う考えを持って、首都圏からの独立をすることを重要に考えるべきだと受け止めてよろしいでしょうか。

○中村（英）圏域部会長　ええ。いつまでも首都圏の一部でいていいのだろうかということもあるし、さらに首都圏がそっちへどんどん広がるようなことになっていいのだろうかということもあります。

○矢田委員　局長に聞きたいのですが、今回のいろいろな意見を聞いたものを意思決定の中でどういう位置づけで考えておられるのか。これはこれとして参考として、こちらはこちらのペースで、やっぱり国土計画だから、国土形成計画だから、それなりの哲学さえしっかりしていれば、これは地元の見解であると。一応、頭の隅では重視するけれども、これに相当縛られるわけではないと理解して議論していくべきなのか。これから相当程度、政策形成の主体になるので相当の意味を持つのだと我々は議論すべきなのか。理論的に言うとそれぞれ見解がありまして、ある面では、私の見解だと、パターン4に関東を切るというのが全体的とかいろいろな意見の雰囲気のような感じがするんです。

それと、今まで聞いてきたヒアリングとの関係でいくと、なかなかそれも突っ込み切れないのかというところが私も理解出来ないのです、今回の調査はどういう意思決定に影響するのか。

○小神国土計画局長　今回の意見聴取の結果についてですけれども、前回お示いたしましたように、この圏域部会でこの圏域について詳しいところまでどの程度ご理解いただけたかは別にして、一定の考え方を基に県の考え方、評価も含めて出してもらったわけです。これは、県、経済団体の意見でありますけれども、九州のように全部こうなっているところについて、また食い違う見解はなかなか難しいとは思いますが、そのほかは、中国・四国についても、多数、少数はあるにせよ、意見が2つに分かれているといえは分かれているわけですし、この圏域部会でこういった計画の実施主

体の考え方を全く抜きに考えることは、今まで委員の先生方がおっしゃられているように出来ないとは思いますが、では、単純に多数、少数で、アンケートが多数決だからそのとおりかということにはならないだろうと思います。

また、あくまでも文章で紹介したものもありますので、今日も委員の先生方からいろいろ考え方のご披露がありましたので、すべての県ということではないとは思いますが、例えば、各県で出した意見と食い違うような方向が望ましいということがあるとすれば、事務局としても、圏域部会での考え方を再度ご説明してご理解を得る努力は必要なのかなと思います。

ですから、ちょっとあいまいにはなりますけれども、この意見のところの多くの意見があるから、そのとおり従わなければならないということではありませんけれども、それなりの重さというものはありますので、そこは、これから事務局もどこまで説得出来るかどうかは別にして、この部会の考え方と実施主体の考え方が若干ずれた場合にどうするかの話ですので、計画論的に圏域部会の考え方でもってずっと走っていくのが良いのかどうかは、そうともまた言えないのではないかな。その辺、私も事務局としても努力をしてみたいとは考えております。

○中村（英）圏域部会長　私も、今のは局長と大体同じような考え方をしているのですが、確かに地方の意見をこうして聞いていくと、いろいろ難しくなるという矢田委員のお話もそのとおりだと思うんですけども、我々は、ここはみんな極めて中立的と言うか、地域から離れた立場で議論しているわけで、そこでは可能な限り、理論的というほどの理論があるかどうかはともかくとして、理屈でもって考えているわけですが、だからといって、それでみんなこれでやるのだといっても動くわけではない。

実際、それをやっているいろいろなことを計画し、考えてもらうのはそれぞれの地域の人ですから、地域の人がそれを全く嫌だと言われるのに、理論的にはこちらのほうが正しいと言ったって、馴染んでもらえないということもあるので、こちらではこういう考え方で、こちらの考えを可能な限り地域の人に理解していただく努力をして、それでまた地域の人々の考えも入れて、この国土形成計画全部に流れている原理なのですが、対流原理という名前をつけてやってきましたけど、こちらから地方へ、地方からこちらへということでもとめるしかないのかなと。

そんなに調整が簡単に出来るかどうか分かりませんが、そういうふうには思っているんです。

○矢田委員　まだ、結論には早いのでこれ以上はあまりぎりぎり言いませんが、私はパターン2とパターン4ですね。

1つは、部会長が言われていましたように、首都圏と新潟県については独自の議論が必要だと思

ます。これに線を引くと、それを受け止める団体が、特に北関東、新潟の場合は今のところないですね。あとはみんな経済連合会みたいなのがありまして、電力会社ごとに区割りがあると思うので、こここのところは独自に詰める議論だと私は思う。

そこを別にすれば、パターン2とパターン4は入れ子状なんですよ。要するに簡単に言うと、単位のボックスは一緒なんです。

パターン2で行くと、中四国と北陸のところに線を引いていますが、ここを目を細めて消すとパターン4になる。ということは、意思形成上それほど私は難しいことではないと。中国経済連合会と四国経済連合会と中国知事会議と四国会議が、それぞれ独自の見解を持って調整していけばよろしいので、あえて対立する話ではないんだと思います。独自にプランもそれぞれ何回も作っていますから、入れ子状である限りにおいては、パターン2とパターン4というのはそれほどずれないと。関東は別にしまして。それならパターン4で行って、パターン2で作成して計画はパターン4で行くというのも1つの手なんですよ。作成だって別に法的にはパターン4ですが、実体の地元のパターン2のような意思形成は尊重しながら、瀬戸内海とかアルプスというのを重視した国土管理が欲しい。これは国土計画であり、太平洋と日本海、両方とも欲しいと。

それで初めていろいろなアジア・太平洋の時代というのが、かなりブロックごとに乗り切れるというところで、こここのパターン2のように、確定しますとなかなか連携というのが自動的にはいかないという意味で、パターン4でパターン2の可能性を残しながらというほうが良いと思います。その辺でいきますと、私はパターン2とパターン4というのは、ほんの1、2団体との話し合いで、それほどずれないのかなと思っています。関東は別ですが。パターン4の線で行ってパターン2の可能性をどこかで残すというほうが、パターン2は、先ほど言いましたように、全体の国土をどうするかという視点が意見の中にあまり出てこないですよ。それでずっと行ってしまったら、この圏域部会をやる前からこれだったんじゃないかと思うんですよ。

そうしたら、始めから身動きがとれないように、省令を1発目でつくってしまえば良かったのに、一応、国土形成計画の考え方で議論しましょうと言って、やっぱり始めに戻るとというのが私も何となく素直に行けない。

関東はおっしゃったような問題がありますので、新潟と関東だけはしっかり議論したい。そこはちょっと私、ペンディングですが、それ以外のところは、線を2本引くか引かないかという違いがあるので、そこはもう少し国土計画的な論理を主張したいなというところがあります。それが地元とそんなに抵抗があると思いません。聞けばこう答えるに決まっているんです、私も地方にいますから。これ以外の答えをやったら怒られてしまいます、いろいろな県から。岡山県だけは独自でやっています

けれども。

しかし、国土としてはそれぞれの意思形成過程は非常に重視するけれども、国土計画としては大括りでやるのが哲学なのだとすれば、パターン2とパターン4というのはよくよく見ればそれほどずれてないと思いますので、その辺をもう少し頭の中に入れて議論を進めていただきたいという見解です。関東だけはまた議論してください。

○中村（英）圏域部会長 私はこの部会として、この案1つだということを出す必要もないのかなとも思うのですが、こういう考えだということで、もう1回聞こうということですかね。だけど、最終的には我々の圏域部会としてこれだということを出すわけでしょう。あまり時間的な余裕もなくなってきたことも確かなので。

○見城委員 先ほどから話題になっています、北関東がパターンを大きく分けて、パターン2になるのか、パターン4で全部新潟も含めて1つの首都圏と合体するのかという話が続いていますが、今回の調査の結果を拝見しますと、ページの6、7なんですけれども、結局北関東に分けられるということは、茨城、栃木、群馬が困ると否定的なことを述べています。

その基本にあるのは、7ページを読みますと、特に栃木と群馬では、先ほど部会長がおっしゃったアイルランドの例に果敢に挑戦するのではなくて、むしろアイルランドがイギリスにずっと独立していたとはいえ、通貨は全部イギリスの通貨で動いていましたし、私はちょうどアイルランドに取材に行って、あの頃を見ているんですけれども、やはり大変な思いをして、結局はアイルランドからみんな男たちがイギリスへ出稼ぎに行って、女性たちは残ってどう大変だったかという時代が長かったわけです。

ですから、そういったアイルランドの例を直接すぐには受け入れられないだろうと。それがここに反映されていますので、決定していく上ではこれは大きな部分で、どうしてもこの北関東の部分全体にはパターン4で行きながらも、実際には分けてこちらの新しいのと言うとパターン2をここだけは入れていきたいとか、そういう傾向であるならば、3県にはきちんとした調整というのでしょうか、自覚をどれだけ持てるのか、本当にそれは実行出来るのか、そういったことも含めてのネゴシエーションは非常に重要だと思います。それがないと、やはりこの圏域部会というのは机上で線を引いていったんではないかという懸念を持たれると思いますので、ぜひここはお願いしたいと思います。

○中村（英）圏域部会長 私もおっしゃるとおりだと思います。もしそういうようなことの方角を我々として示すなら、いろいろな具体的な例もはっきり言いながら、やっていったほうがいいのかという感じもします。

例なんて幾つでも挙げられると思うんだけど、例えば、北関東。それは群馬県でも栃木県でも

どこでもいい。そこからアメリカやヨーロッパに行くなんていうことではなくて、福岡へ出張するというのが今どんなに大変なことか。そののところに新潟まで入れれば、人口7、800万の人が住んでいるわけですね、1つの国のサイズ。そんな人が、それくらいの数百キロから千キロ動くのだから、非常に大変なんです。ましてやボーダレスだと言って、何千キロを人が自由に交流する、物が交流するよなときというのは、このバリアというのはこれからとても大きくなっていくだろうと思うんですね。

そういったのを、もうちょっと大きな関東圏にいる間で考える限りにおいては、ここのところに、そういう形での独立した交通拠点であったり、文化拠点であったり、そういうのを果たして考えてくれていってくれるだろうかという思いが、私はするんです。

どうぞ皆さん、ご自由にご発言ください。

○中村（胤）委員　では、自由にということ。

北陸3県のことが今、いろいろ話題になっていますけれども、この報告書案の中の11ページの長野県のところをちょっと見ていただくとわかりますけれども、長野県というのは信州とっているわけですから、北信、中信、南信の3つぐらいに。これは1つの県でありながら、1つのまとまりになっている。北陸3県も同じように、かつては交通の便が悪いし、ここに1つのまとまりがなければいけないということで、長野県の信州と捉えれば、今度は全体の、これから拡大して、日本海と太平洋を縦断すればもっともっと可能性があるのかなと。幼稚なのかもしれませんが、そんな発想をしてみました。

大体、今までの発想というのはどうしてもミニ東京でものをいろいろ考えていますから、それぞれの地域、あるいはエリアに魅力とか資源というものをどうやって自分たちで生かそうかということを実際に考えたのかなと。そういう意味では、先ほど来言いますように、自立とか、自治がそれぞれの地域にこういう圏域ということを契機に、もっともっと動くのではないかな、そんなこともちょっと感じました。

○関川委員　ちょっとした感想なんですけれども、今の北陸3県の件なんですけど、非常に団結力が高い。しかし実際に旅行してみると、例えば福井県なんですけれども、越前と若狭では根本的に違うんですよ。それなのに、こういうアンケートでは団結力を誇る。だから、ここではもちろん話題にならないのですけれども、ここの議論にふさわしいかどうか知りませんが、いずれ道州制が施行されたならば、県境を壊していく必要があるかもしれない。むしろ昔の小浜藩、若狭の国のほうが、この地域に限ってはまだ文化的なものが厚く積もっていると思います。ですから、この3県の団結というのはこのアンケートの上でというか、聞かれたらこう答えるというトーンのほうが、私は強いように思

います。

それとわずかに重なるんですけれども、静岡県の伊豆の国、あるいは福島県の会津地方、新潟県でも上越、高田を中心とした地域などは、県境を尊重するという事ですから今は問題になりませんけれども、やがてそれを問題にしていかなければ、とてもではないけれども、現状は壊していけないだろうと思います。これは直接の議論にはあれではないんですけれども、何となく3県の団結に対して少し皮肉を言いたくなっただけです。

以上です。

○中村（英）圏域部会長 石原委員、何かご感想はありますか、皆さんのご意見を伺って。

○石原委員 部会長がおっしゃるように、各圏域ごとのバランスということを考えると、関東全域というのは極端に大きくなってしまおうという、これは気になる場所なんです。

一方、私は郷里が群馬なものですから、群馬で私は若いころ、茨城に勤務しておりましたし、栃木にもいたし、北関東に思いが深い人間なんです。北関東は、東京に寄食しているというより、東京と一体的な気持ちを持っている人が多いんだらうと思いますね。経済的にも非常に結びつきが強いし。

そういう歴史があるものですから、今回の意見聴取に、北関東3県からは北関東3県が横につながるという意見が1つも出てこない。みんな、南を向いてしまっているわけですね。しかし、国土全体をにらんだ場合に、首都圏を含む関東だけが極端に大きくなってしまってバランスがとれない。ここを全体の国土バランスある発展という視点からどう考えるんだということで、どう割り切るかなんですけれども、北関東の人たちの気持ちというものが、説得出来るような理論構成が出来るかどうかということになってくるんじゃないかなと思うんですね。少なくとも、今まで出てきた意見では北関東という意識が全くないわけですね。関東という意識が強烈なわけですね。

ですから、その点は、南関東の人たちというのはそんなに北関東を意識していないのですが、北関東の人というのは、関東と一体という意識が非常に強いんじゃないかと。私は今、神奈川に住んでいるものですから、その辺の気持ちがわかるんですけれども。ですから、今度、圏域を設定する場合に、経済の動きとか、あるいはそのこの住民の気持ちとかというものと、全国的な視野から考えた区域の設定というものの調整をどう進めていくかという、この今回の作業の一番基本的な問題にぶつかるんじゃないかと思うんですね。

北陸とか中四国は、小さくまとまる意見を配慮するかしないかの問題で、大きく言えば、パターン4のような形が将来の私たちに一番望ましいことだと思うんですね。それは、私はある程度、話しようでは説得出来るんだと思いますが、関東を横に切ってしまうという案が今まで出たことがないも

のですから、どこまで説得出来るか、その問題ではないかなと思います。ご案内のように、今の衆議院の選挙区の比例区は南関東と北関東を分けてあって、選挙区としては分けたという1つの実績が出来たんですけれども、こういう広域圏の設定としては初めての提案になりますから、このところをどう関係者の理解を得ていくのかということと、最終的にはそこをどう割り切るかということだろうと思います。

○中村（英）圏域部会長　どうぞ。

○御厨委員　いろいろ伺っていて思うんですけれども、私は歴史屋ですから、歴史的に考えてみて時々出るのが、江戸時代の藩は良かったねという話で。確かに、三全総のときも江戸時代の藩を考えてみたら、みたいなことが出て、江戸時代の藩の話が出るとほっと和むということがあって、そこにすごく理想郷があって、どうも明治以後の近代化というのはそれを無理に少し逃亡してきたよねという話になって、その無理をとると、元の藩に戻るみたいな話があるんですが。

元の藩に戻るというのは美しい話であると同時に、元の藩というのは勝手に藩でやっていたのであって、よそと発展形態がどうであるかということは全く考えない。つまり、ここで言っているような俯瞰図で見るという話のない時代でありまして、そこへ戻すなら戻すでいいんですけども、多分そういうお話ではない。

戦後はとにかくいろいろな意味で非常に複雑ですけども、言葉の意味も複雑ですけども、やっぱりバランスということが常に言われてきている。これは外すわけにはいかないとすると、最終的にどうなるかという話が1点です。

もう1つは、今、俯瞰図と申しましたけれども、旅行をたくさんする人でも、日本全国を行脚してすべてを知っているという人は普通ないわけで、そうすると、自分の県、あるいは自分の都市と違うところを見るというのは、今はほとんどテレビとかそういうビジュアル媒体でしかないわけです。ビジュアル媒体の報道仕方1つによっても雰囲気が変わってくる。圏域を越えてもこういうところがあるという報道があれば、ああそうか、県境というのはやっぱり狭く縛っているものだなと考えるし、とはいえ、我が県のお国自慢みたいな話になれば、その県境は非常に大事だという話になる。そのところは、実はかなりビジュアル媒体と言いますか、今、申し上げたようなテレビや何かの媒体の放送に、かなりサブリミナルな意味もあって、みんな影響されているところがあって、そこをどう考えるか。

つまり、現実こういうふうに分けていくときの話と、バーチャルな意味で思っている、バーチャル県境みたいなものは多分すごくある。それが全部積み重なっているのが今日でしょうから、逆に言うと、先ほど矢田委員がおっしゃったように、そういうところで区切りをやると、経済団体がものを

言って、こういうふうには。

(スピーカー不調により議事中断)

○中村（英）圏域部会長　マイクなしでやりましょう。ちょっと大きな声を出していただいて。

○御厨委員　私の発言があまり面白くなくて、ブーイングが起きたような感じで。失礼いたしました。

たしか、経済団体の話まで申し上げたところでした。地域の経済団体というのは、そういう点で言うと、ものすごく発言がしやすいし、そこで取りまとめがしやすいというところで、こういう話が出てきているんだと思います。だから、地域の後は経済団体と地域の住民との関連で、こうしたパターン4というのは私は非常に意欲的で良いと前から思っていますけれども、そういうものが受け入れられるようにするのか。

先ほど局長が説得するとおっしゃいましたけれども、多分説得の論理というのが、今言ったように、説得される相手は経済団体のみならず、その後ろにいてバーチャルにほかのことも考えているような住民もいますから、完全に納得というのは難しいでしょうけれども、まあしようがないかというところまで持っていけるかどうか、私は勝負はそこにあるのではないかという気がいたします。失礼いたしました。

○中村（英）圏域部会長　ありがとうございます。どうぞ。

○矢田委員　圏域部会と計画部会が分かれてやっていて、計画部会の骨格については、中間報告はないんですけれども、あちこちでいろいろな報告はあるんですが。しょせん、それが統一されて、この形成というのがあるんですね。従って、計画の基本的なコンセプトに沿った圏域区分というのは当然あるべきだと思うので、単に量的な形で切るというのも1つですけれども、そうすると私は今の計画部会の中間報告に出ていないので、何がポイントか、私自身が言及出来ないのですが。

1つはやはり、アジアとどう結びついていくかという問題。これは日本海であり、九州西南部、あるいは北東部がどう結びつくか。

もう1つは、大地震も含めて国土管理。小さなところで災害対策なんてそう簡単には出来やしないということを含めれば、アルプスであり瀬戸内海であり、特に地震が大きそうな西南部でありというところを全体としてどう管理するか、国の責任もあるけれども、個別の事業はブロックごとなので。そのところの大きな国土管理問題。

それから、先ほど部会長が言われました、大都市圏の再編成。人口減少で、ますます都市に人口が

集中していくときに、一時大膨張して受け皿となったのが北関東であり、南関東の埼玉とかなんですが、これがまた人口移動が再編成されていくときに、その地域に重点的に対応しないと、申しわけないけれども、都心再生ばかりやっていたのでは、一気に通勤圏が1時間半から2時間ぐらいのところまで拡大していったところが縮小していくんですね。

これは北関東独自の戦略としても、日本全体の課題だということはかなり明確にしたほうが重要だと思いますし、その辺から見て、計画の大きな流れの中で重点的に整備していかななくてはならないのは海であり、山であり、水であり、そして大都市圏の縁辺部というところから、ある面ではこの4区分の、パターン4プラス北関東論の論理構成をしていかないと。何となくまとまりやすいところからやっていったら、おそらく国土形成計画とちょっと違うんじゃないかという感じがします。そのところは私は分離して議論しているところの限界が出ているのかなと。それは局長のところ、かなり統合して説明していただきたいなと。

それから、新潟・北関東はそろそろ議論しにくいので、例えば関越とか、地名をつけて議論しているほうがわかりやすいと思うんです。マルポツなんかというのは、何となくその他あちこちから排除されたのがまとまったグループみたいなのところがあるので。その辺は、途中から地名をきちんと入れた議論のほうがいいのかと思いました。

○中村（英）圏域部会長　具体的な線引きの話だと、私は、かなり気になるのは5ページ。矢田委員の言われる北関東、新潟にさらに福島が加わるという話なんですね。これは形が安定的だということ以上に、交通上の条件や何かを見ると、これからはこういうものなのかなと。

さっき中村胤夫委員も、それに近いようなことをおっしゃったと思うのですが、我々は、白河関の向こうとこっちという見方を長いことやってきたのですが、白河関のところは、今の近代交通手段で見れば大きなバリアでも何でもないので、特に福島県の南のほうというのは、こっちのほうと一緒にいろいろな活動をやっているわけだし、それからここにも書いていますけれども、新潟の人は、首都機能の移転というか1つの代替先として今度こういうのをという話もあります。そのようなことを考えていくと、そういうものもあるのかなと。ただこの前のときに、そういう線は引かずに出しているものから、皆さんが気がついてないようなところはあるんだろうと思います。地元の人はどうお考えになるか、よくわかりませんが。

どういたしましょうか。局長、こういうふうなことなんですかね。我々としては国土形成計画という立場から、矢田委員が先ほどおっしゃったような、今後の国土計画的な視点というもので考えたとき、大体こういう方向が望ましいという圏域部会としての現段階での案を書いて、それで地元にもう1回、我々としてはこう考えているんですがどうでしょうかというのを出して、そこである種の妥協

案みたいなものが出来上がっていくということなんだろうと思うんですが、そういう形でもって最終的な案にしていくということになるんでしょうかね。

どうも私は国土計画的というか、私の言うような理屈だけで押しまくって行って、それで本当にうまくいくんだろうかという心配は持っているんです。かといって、地元の人に言われることを全部聞いていたら、何のためにこれを作るのかわからないという、矢田委員がおっしゃるような話で。

どうですか、関川委員。

○関川委員　今、おっしゃった例えば、北関東、新潟、福島という5県のアイデアは今まで出ていなかったんですけれども、そういうことは非常に刺激的であると同時に、そういうことをもう1回聞いてみるというのが、完全に安心しきっている東北6県プラス1県で7県に対するかなり強い刺激にはなると思います。

○中村（英）圏域部会長　どうぞ。

○見城委員　この東北を5県にして福島と新潟と群馬というのは、例えば尾瀬を中心にして一緒にやるとか、今までにも出た案だったと思います。福島を東北から、むしろこちらの北関東と結ぶかどうか。ただそういう案が出たとき、たしか、では東北5県になったときの経済力と、福島がこちらの北関東に入って福島、新潟、茨城、栃木、群馬、例えばこうなった5県の場合、経済的なバランスはどうなるのか、これは一度きちんと出していただきたいと思います。

それと、11ページの中部圏関係で、長野県がどこにもパターンを区切らずに意見をおっしゃっていて、「パターンの選択、評価、提案は行わない」というところの一番下に、「それよりも、まずは国土交通省が、目に見える形で国土のランドデザインを描き、この国をどうしたいのかを明確にすべきである」と書かれているのですが、こういう意見というのは、潜在的にはどちらについたらいいのか微妙にわからない、線引きされることによってどうなるのかわからない。そういう県は特にそう考えているのではないかと。

○中村（英）圏域部会長　こういうふうな意見を止めてほしいというのが、今度の広域ブロックのそもそもの考えの発端なんですよね。みんな霞ヶ関で考えてほしいということで、これは無理だよと。みんな自分で考えてやってほしいと。

どうですか、御厨委員。

○御厨委員　おっしゃるとおりで、ただ、地方が結構、地方の問題を考えていた時期というものもあるんですけれども、これは歴史的に言えば、多分、戦後すぐからある時期はそうでしょうけれども、高度成長期はずっと霞ヶ関で考えてきました。それがもう限界に達していて、どうやったら地域が自立して考えるようになるかという話です。

ただ、地域だけでももちろんすべてのアイデアが出るわけではない。そこでどうやって中央が後押しをする、ないしは知恵をつける、知恵をつけるというとまた言い方が悪いのですが、要するに、そこに具体的な、風船で言うと膨らまし効果みたいなものを持つかどうかというところであって、そこは本音のところでは、今、実際にこの国土交通省でやっていらっしゃる皆さんにとっては、多分、今までとは多少違ったスタンスになるのしょうから、それをどういうスタンスでやったらいいかというのは、行政の手法としては、ある程度悩まれるところではないかという気がします。

○中村（英）圏域部会長　今、もう1つの計画部会がありますね。あそこでは要するに全国的な指針というか、方向を示す仕事をずっとやっているわけですね。それが今、御厨委員の言われるような話で、全国一斉というか、国としてどういう方向をサポートするか、推奨するかということ。

一方、圏域部会では、それぞれ地域でぜひ積極的に、自立的に考えてほしいというのが、今度の形成計画の本当に一番大事なところだと思うんですね。

こういうふうにしてそっちで考えろなんて言って、考えて出したら必ず文句言うんですからね、そういうプランのものでは出来ませんよ、それは。

○石原委員　最終のまとめのときには、関係の地方公共団体や経済団体の意見は当然聞かないといけないし、聞いてきたわけですけれども、地方の意見の最大公約数で案をつくるのではなくて、これからの国土整備をどういう理念で、どういう考え方で進めていくんだという基本的なスタンスというのをこの圏域部会としては議論して、その考え方で整理したらこういう案になると。その過程で各地方の意見も十分拝聴したけれども、最終的にはこれが一番望ましい案だということで、報告するということではないでしょうかね。

私は最終的には割り切らないといけないと思うのですが、割り切るときには論理に一貫性がないといけないと思うんですよ。地方の意見というのは、私も地方の仕事を長くやっていますけれども、いろいろな意見があって、地方の意見で行ったら最後はまとまらないんですよ。全く利害の反する意見があるわけですから。ただ、最後は決めようとする立場でそういった意見を踏まえて決断するしかないと思うんです。だから決断した結果については、非常に論理的に一貫した説明が出来ないといけないと思います。

○中村（英）圏域部会長　どうぞ。

○見城委員　特に問題のないところと問題のあるところがはっきりしましたので、北関東などにおいては、先ほど部会長が福岡に行くのに、という例を出されましたけれども、群馬にしても新幹線で高崎から東京へ出るという路線が頭の中に出来ていますし、茨城も出てきますよね、つくばエクスプレスが。そこに住む住民にとっては、東京へいかに近くなったかということが今、進行形であり、現

在完了形で今、そうになりましたというような現状があるものですから、そのことに対して、交通機関は東京へ東京へとみんな向いていると。

それではない自動車道なのか、何か具体的な別の価値観をいつもいつも考えてもらうとか提供することが出来ない限りは、今まで東京に向かってきたものを急にはなかなか切れない。どうしてもそこへまた戻るといふことの繰り返しの様な気がするんです。そういう意味で、長野のほうからこの国をどうしたいのか。ただ霞ヶ関が決めてくれということではなくて、それに代わる形でのどういう可能性が秘められているのか、そういったことももっともっと出していくべきで、それでさあどうかと。

こうしない限りは東京にやっと繋がったのに、短縮されたのに、こっちに向かないで直接日本海へ行ってくれと言われても、怖くてそうはいかないという部分があるのではないかと。その辺が、表現はさまざまですけども、ここのアンケートを見ますと、問題になっている地域はそういうものを抱えているというのが読み取れると思います。ここをどうするか、こちらから提案出来ることはもっともっと提案すべきではないかと思ひます。

○中村（英）圏域部会長 わかりました。東京とのリンクというのはもちろんどこも大事で、どの圏域にするかとそれを切ろうなんて話は全くいかんというわけで、それよりも、例えば私のような、神奈川に住んでいる人間は羽田まで30分で行ける、それで九州まで出張に行けると。

それなのに、一方、向こうの北関東の伊勢崎だとか大田原の人が東京まで出てくるのに、いくら新幹線を使ったって1時間半とか何とか、それからまた羽田空港に行って、九州へ。

それは対等に競争なんていうことはとても考えにくいわけですよ。人の流れだけでなく物の流れもそうで、北関東にも自動車部品産業がたくさんあるのだけれども、一方、北部九州は、日本で2番目に大きな自動車生産基地ですよ。そのとき、神奈川県と北関東のそういうところが、なかなか競争になっていかない。そうすると、いつまでたっても追いつくどころか離されていく一方だと。それに対してどういふふうにかんがえたらいいのだからかと。

○平野委員 今、部会長がおっしゃったその言葉そのものを多くの人に伝えて、ここで言っているバランスというのがどういふものなのかを多くの人にわかってもらうことも必要かなと思ひました。例えば関東を2つに分けるときに、今、大変心配をしている3県だけではなく、実は南関東の人たちでも都庁の人たち以外の人たちが、そんなに自分たちのところが小さくなっちゃうのと思ひてしまいがちなんですけども、そういうバランスは、土地の広さのバランスと違うんだということなども、多くの人がかんがらないと納得してもらふところまでなかなか行かないかと思ひますので、私自身も今、ここに出ていていろいろ勉強になっているんですが、もっと教えていただきたいなとも思ひていま

す。残り時間が少なくなっていますけれども、ぜひよろしくをお願いします。

○中村（英）圏域部会長　時間がほとんどなくなってきましたんですが、先ほど石原委員から、これからのやり方をうまくまとめていただいたのではないかと思いますので、私どもの全員が同じ考えではないにしても、基本の考えみたいなものをしっかり書いて、それがあまりばたばたぶれたりしないということで、一方では地元の人考え方も入れるべきところ、入るところは入れて調整していくということで、次の案に絞っていくこととしたいと思うのですが、それでよろしいでしょうか。ちょっと難しい仕事で局長が大変なんです。

○小神国土計画局長　そうすると、お時間をいただいて、また先生方とは別途ご相談させていただきたいと思います。

○中村（英）圏域部会長　また、矢田委員あたりにも手伝っていただいて、今の理論的なところも固めさせていただきたいと思います。今日はどうもありがとうございました。

○石井国土計画局総務課長　それでは、ちょっとお時間をちょうだいしましてやらせていただきますので、次回の圏域部会は、開催の日程が決まり次第改めてご連絡を申し上げたいと思いますので、よろしくお願いいいたします。資料はその場に置いていただきましたら郵送させていただきますので、どうぞ、そこに置いていただけましたらと思います。

○関川委員　この間に次回5月12日とか聞いたけれども、1回白紙に戻すということですか。

○石井国土計画局総務課長　もう1回内部での時期の調整も要ると思いますので。

○関川委員　わかりました。

○石井国土計画局総務課長　それでは、本日はどうもありがとうございました。

閉　　会